

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和6年度第1回朝霞市博物館協議会	
開催日時	令和6年10月24日（木） 午前10時30分～11時45分	
開催場所	朝霞市博物館 講座室	
出席者及び欠席者の職・氏名	委員6名（金子幸男会長・猪俣みちよ委員・杉山正司委員・陶山憲裕委員・利根川仁志委員・吉岡知子委員） 欠席者4名（茂木静枝副会長・榎本洋二委員・鈴木香織委員・原口憲充委員） 事務局6名（奥山生涯学習部長・藤原文化財課長兼博物館長・木内主幹兼課長補佐・高橋主任・平野主任・平山会計年度任用職員）	
議題	1 令和5年度事業報告 2 令和6年度事業計画及び進捗報告 3 その他	
会議資料	資料1 令和5年度事業報告 資料2 令和6年度事業計画及び進捗報告	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
会議録の確認方法 会長による内容確認		
傍聴者の数	なし	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（傍聴者確認）傍聴者なしを会長へ報告  
（木内主幹兼課長補佐による司会進行、資料の確認）  
（藤原課長から挨拶）  
（金子会長から挨拶）  
（金子会長へ議事進行を依頼）

（金子会長）  
それでは議事に入らせていただきますが、本協議会の議事録の確認ですが会長である私に一任させていただいてよろしいでしょうか。

（全員）  
異議なし。

（金子会長）  
本日の議題は、「1 令和5年度事業報告」、「2 令和6年度事業計画及び進捗報告」、「3 その他」の3件の議事となっております。  
それでは、議題1「令和5年度の報告」について事務局から説明お願いいたします。

（藤原課長）  
それでは、議題1の令和5年度事業報告につきまして、館長の藤原から御報告させていただきます。

議題1につきまして御説明いたします。委員の皆様には事前に資料をお配りしていること、また、令和5年度事業報告につきましては昨年度になります令和6年2月の会議開催の際にお伝えしておりますので、まとめて御報告させていただければと思います。

御質問等ございましたら、後ほどお寄せいただければと思います。本日机の上に、資料の差し替えということで、後に資料2で使う資料を配布させていただいております。

それから、本日は「ミュージアムカード」をチラシとともにお机の上に置かせていただきました。こちらは今回、埼玉県博物館連絡協議会の西部地域館が25館あり、連携して「ミュージアムカード」を各館それぞれ展示の最も目玉になっている展示物をカードにした物です。これを12月まで配りまして皆さんに集めていただくということで作成しております。朝霞市博物館につきましては番号No. 1ということで、終塚古墳から出土した家型埴輪をカードにしておりますので、そちらをお収めいただければと思います。

それでは、資料「1 令和5年度事業報告」、こちらの1ページ目をお開きください。

令和5年度の利用統計でございます。開館日数が年間で290日となっております。令和4年度に比べて5日間多くなっております。入館利用者数につきましては、2万5,118人で行いました、学校団体の方が26団体、一般団体が99団体、当館にお越しいただいております。いずれも令和4年度に比べまして、表にあるとおり大幅に人数の方が上回っております。ようやくコロナで昨年5月に2類から5類に移行したということで活動や外出が多くなってきておまして、その関係で増えてきています。ただ、コロナ前に比べてまだ完全には戻りきっていないというような状況でございます。

続きまして事業報告をさせていただきます。同じく1ページ目でございます。展示ですが、2段目になります。第37回企画展がこちらでございます。

展示につきましては第5次朝霞市総合計画の中で年間6本の展示を行うということで指標を設けておりました、この第37回企画展が1本目の展示、それから一番下段にありますテーマ展示ということで、「朝霞市県展作品展」、こちらはですね、令和5年度につきましては、第71回の埼玉県美術展覧会に出品されました市内在住勤在学の方の作品31点を紹介させていただいております。

続いて2ページ目をお開きください。ギャラリー展になりますが3本目の展示ということで、「朝霞の神社と古事記のおはなし」ということで、ギャラリー展示ということになりますので写真パネル等が中心になった展示を3本目ということで行わせていただきました。それから4本目になりますが、「朝霞と地震—関東大震災から100年を迎えて—」ということで、今年4月までの継続、2年度継続の展示です。関東大震災の状況、当時の朝霞市の状況などが入っております文章などをパネルにして展示をさせていただきました。

それから5本目ということで、「あさか発掘調査速報展—足元に眠る地域の記憶—」こちらにつきましては、当館と同じ課の文化財保護係が前年度の令和4年度に市内で実施をいたしました発掘調査の成果につきまして、出土品や発掘の状況をパネルにして紹介をさせていただきました。本来でございますと発掘につきましては、発掘後に資料の整理とそれから研究を行いまして、発掘調査報告書を出させていただくのですが、発行までに時間がかかってしまい、なかなかそのホットな状況を市民の皆様にお伝えすることが難しいという状況でしたが、前年の状況まだ研究の方は進んでいないけれども、どういものが出たかということをお見せできたということで始めたものでございます。

次の段でございます、収蔵資料の展示でこちら6本目となりますが、収蔵資料展示、「絵図・地図にみる朝霞」ということで、近年の収蔵資料の調査の成果をもとに近世江戸時代から現代にかけての朝霞の絵図・地図を紹介したものでございます。

そして7本目は当館でも力を入れております博学連携に関する展示ということで、小学校3年生の博物館利用事業展示「昔の道具」を実施いたしました。

以上の結果で、6本の指標に対しまして令和5年度は7本の展示を行うことができたということでございます。

また、その他にも簡単なケース1台を使った、資料紹介展示で「独楽」ですが、館で持っておりますいろいろな独楽を紹介したものです。それから「ワタから糸へ」は小学校1年生の「たぬきの糸車」と連動している展示になります。ケース一、二台を使いましてギャラリーや展示室内で行いました。

また、通年受け入れをしております博物館実習生によるテーマを設けた展示も行っております。

現在もラウンジにあります生体展示、生き物の魚等の展示につきましては年間を通じて「朝霞で見られる水の生き物」、そして夏には、博物館で飼育をしております「カブトムシ」の展示をしております。

続いて、3ページ目になります。講座は「歴史講座」と「古文書講座」を実施しております。

続きまして、体験教室は年間5本を実施しております。夏休み体験教室は3本を当館の学芸員等が講師となって実施しております。

同じく4ページ目で、博学連携事業でございます。こちらにつきましては、第5次朝霞市総合計画で、市内小学校10校中学校5校の計15校が博物館を利用するという指標になっております。

小学校3年生の博物館利用事業につきましては、市内10校全校の児童に御来館いただくことができました。

また、小学校1年生の博物館利用事業につきましては、国語科の「たぬきの糸車」に

伴いまして糸紡ぎをどういう形でやっているのかというのを見ていただく展示授業になります。通常ですと出張事業でこちらから道具を持って行って、各学校に出向いてという形で行っております。令和5年度につきましては8校が出張事業で、資料貸し出しは1校ということでした。学校の都合もございましたけれども、計9校での実施となっております。

また、このページには記載しておりませんが、学校団体26団体の内訳といたしましては、「中学校社会体験チャレンジ事業～ふれあい3days～」という中学生の実習ということで仕事の体験の受け入れを市内5校全校から受け入れを行いました。生徒さんが1月から2月にかけて、学芸員の仕事を体験していただくという項目を行っております。こちらと小学校の体験の事業等含めまして、市内15校全ての学校の生徒さんは博物館を利用していただいたということでございます。

また、博物館の利用検討委員会につきましては、市内小中学校の先生方から成る会議体でございまして、こちらで博物館で会議を行っていただきまして、博物館の利用の仕方ですとか、利用の方向等、どういう形で利用していただくかということを経験していただくために、滅多に見る機会のない収蔵庫を御案内させていただいて、実際に博物館でどういう資料がどのような形で収蔵されているかというのを見学していただくたり、体験実習はどんな形で事業が行われているか、というようなことも御説明して検討会議に活用していただいております。

博物館学芸員実習生につきましては8大学、計8人の学生の実習を受け入れたところでございます。

続いて、5ページになります。「その他」令和5年度につきましては館内のくん蒸業務以外に、今行っております館の外壁改修工事の基本設計を実施しております。工事の関係につきましては、後ほど御説明させていただきますが今年度順調に進んでいるところでございます。説明は以上でございます。

(金子会長)

はい。ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がございましたが、何か御質問、御意見、あるいは何でも結構ですので。何かございますか。

(利根川委員)

まず、令和5年、コロナ禍も落ち着いて、こうして来場者の多い少ないはあったかもしれませんが、1年間通して博物館運営に御尽力いただきましたことを心から感謝とお礼申し上げます。ありがとうございます。

何点か確認をさせていただきます。まず、令和5年度の事業の常設展示で、年間開催されている考古分野の「遺跡が語る朝霞」で、参加人数の累計が2万4,170人、令和5年度の利用者数が2万5,118人、これは来場した方の大半の方がこの展示を見ているという計算で、よろしいですか。

(藤原課長)

こちらの入館利用者数と、それから考古分野・歴史分野・民俗分野の常設展示と通年でやっている参加者人数の違いですが、小学校1年生博物館利用授業で行っている国語科の「たぬきの糸車」に伴う糸車体験を館の学芸員が出向いて行う出張授業を行いました、参加人数は博物館の利用人数に含まれていますが、常設展示を見た人数には含まれないので差が生じております。

(利根川委員)

ちょっと中身について教えていただければと思います。2 ページ目のギャラリー展示の「朝霞と地震—大関東大震災から100年を迎えて—」ということで 現在の朝霞市の対策があると思いますが、これはどういう朝霞市の対策、例えば上水道管、水道管の耐震化をしているとか公共施設の耐震補強していることとかという事を写真とかで紹介をしている現在の対策というのは、どういう形でやっているのかということをお聞きかせてください。

(藤原課長)

今回行いました、関東大震災から100年を迎えてという展示の中では、実際に危機管理室から資料ということで、ハザードマップの提供を受けまして、そちらの方もパネルにして展示しました。

関東大震災のときの市内の状況、それから都内の状況がどうであったかと、古い地図の中で被災地図のようなものが、国の方で発行されたもので復興図という形で残っていて、その図のギリギリのところに「朝霞市」が出てくるというような状況があったので、そちらの方からこんな状況でしたということで紹介させていただきました。

あわせて、先ほど申しました提供を受けたハザードマップも展示させていただいて、御自由にお持ち帰りいただくようなものも入れさせていただいたところです。

現在の状況の対策というところまでは触れられてはおりませんが、実際に100年前にこういう所で、こういうことがあって、特にそのときに朝霞市において逸話もいろいろ本の中に残っている部分があったりして、そういったものを展示させていただいたという経緯がございました。

最近の市の対策自体に触れたところというのは、そのハザードマップ以外のところは少なかったのですが、現在私どもで伺っているところでは、耐震管の整備ですとか、市内のハザードマップも国の方針がどんどん変わってきている中で、これまでは地震だけだったものを風水害といったところも含めたものの防水ハザードマップみたいなものも作ったりしています。

あとは対策ということでは、職員は市内対応班、地域対応班ということで、市内10か所の小学校に職員が配置されていて、それは引き続きということですが、そういった通常の対策に加えて、最近では地震というよりもむしろ風水害の部分などがよりピックアップされているように思います。

特に今年も夏の終わりに、急に突風が吹いたり集中豪雨があったりというようなことがございましたので、そういったところには力を入れているということは伺っております。

(利根川委員)

わかりました。

今年度も地震の関係のギャラリー展示が行われたけれども、また来年度も、もしやるとしたら、朝霞市の例えば水道管の耐震化率ですとか、今この計画だとか、公共施設も利用させていただいて市役所なんかも耐震化に努めているということも、地震の強さによっては違うのだろうけど、安心の対策をやっていますよ、という写真や説明も一緒に展示できることを検討いただければというふうに思います。

続いて、先ほど館長から「利用検討委員会」というお話があって、検討委員会という方は、教職員の方々とかというお話ありましたけれど、どういう方がメンバーになっていて、小中学校の利用も多い中で、博物館に対して、この利用検討委員会から何か運営についていろいろ御意見があるのかどうかという点をお伺いします。

(藤原課長)

まず博物館利用検討委員会につきましては市内小中学校の全ての学校から出しているいただいております。その中では会議の中でいわゆる博学連携事業ということで、現在は小学校3年生と小学校1年生が中心になっておりますが、以前は小学校6年生については「火おこし」の事業もやっており、博物館をどのような形で使っていくかということをも博物館と生涯学習部の方と学校教育部で行っております。学校の方が中心に共同で、研究をする会議体になっております。これまでは、その博学連携の事業の結果を「出版物」ということで利用検討をし、利用をした結果や事業の状況なども「出版物」を博物館では作っており、これは利用検討委員会の方が作成しています。

そのほか、これまでですと実際にどういう資料が使えるかというような資料の提供ですとか、こちらの方からこういったものがありますよという提示をして、どういう形で使っていこうか、いわゆる使用できる資料、そういったものも共同で研究していたり、うまくどういう形で博物館が使えるかと、今年度どういう事業がということで、最近、タブレットが各校の全生徒さんに配られている、そういったものをどういうふうによく使っていこうかということも課題に入ってきたりしております。

いかにその事業の中に、当館は、東上線沿線と言いますと、池袋を出まして、埼玉県に入りますと、東上線沿線で朝霞市と川越市しか博物館を持ってないという、これは朝霞市としての特徴になりますので、そういったところをどういうふうによく活かしていけるかということも共同で研究している会議体になります。

後は、コロナの間、中断していた時期がございましたので、再度そのコロナ禍の前に戻していくため、あの活発だった頃をどうやって取り戻すかということが今、第一義的などころがございまして。これから新しいものもいっぱい出てくるのかなというところではありますけれども、昨年度、それから今年度につきましては、実際にどういう形で再度博物館の利用を戻していこうかということが議題にあがっていた形でございます。

(金子会長)

今、利根川委員さんから言われたように、検討委員会ですね、小中学校のこれは、初めてですか。

(藤原課長)

開館時から設けられておまして、過去ですとこういう形で利用する事業が生まれていったというところがございます。

(金子会長)

そうですか、私もずっとやる中で知らなかったもので、申し訳ございません。あと何かございませんでしょうか。

(猪俣委員)

この検討委員会をやっているっていうのは、とてもすごくいいことだと私も思ったのですけれども、やはりこの学校教育が対象になるという博物館の指針っていうのですかね、それもわかりますが、やはり市民にちょっと目を向けていただくという検討委員会っていうのがあると、更に認知度が上がるという方向に行くのではないかなと思いました。ただ、やっぱり開催はちょっと難しいかと思っておりますので、今後検討していただければと思います。

(金子会長)

だからやはり学校との関係が非常に、博学連携がうまくいっているようですので、これからもますますお願いしたいと思っております。

ほかに何かございますか。

それでは、意見がないようですので、次に進ませていただきます。議題の2の「令和6年度事業計画及び進捗状況」について説明をお願いいたします。

(藤原課長)

それでは議題2「令和6年度事業計画及び進捗報告」につきまして御説明いたします。

こちらは今年度9月末までの実績、それから今後の計画合わせて私から報告をさせていただきます。大変申し訳ございません。先ほど申し上げました本日1枚資料を訂正して机の上に配布しております。そちらを御覧いただく形になります。1ページ目だけでございます。

初めに利用統計でございます。令和6年度、9月末までの開館日数が145日、入館利用者数が1万3,381人で行いました。学校団体は1団体4人となっております。その一件というのが、本日出席をいただいております杉山先生の引率で駿河台大学の学生さんの博物館見学実習で、こちらを利用していただいたものでございます。当日は私の方から博物館、朝霞市博物館の課題等も含めていろいろとお話をさせていただいております。

それから、一般団体でございます。昨年度と比較すると同時比較ではないのでということがありますが、昨年度年間で一般団体99団体の方に来ていただいておりますが、既に今年度は9月末で72団体となっております、おそらく現時点ではもう昨年度の数を超えているかと思えます。こちらは、実は市内の団体の方も利用しておりますが、市外の高齢者施設、それから障害者施設等の方の利用が大変多くなっている状況でございます。車で来られまして、見学していただいております。特に高齢者の施設の方ですと、小学校3年生向け「昔の道具」の展示をしてあるときは非常に喜んでいただいて「懐かしい」というようなお声もいただいているところでございます。

続きまして事業報告と計画、併せて御説明いたします。

初めに、企画展でございますが、昨年と少し違った状況が出てきておりますので詳細にお伝えをしたいと思います。企画展ですが通常ですと、昨年の資料1の方も見ていただくとわかるとおり、10月から11月にかけて実施をしているところですが、今年度につきましても、当初計画では10月に市内の古墳時代をテーマにということで予定はしていましたが、実は今年の9月まで実施してございました市内の宮戸地区という、東京都の浄水場のちょうど裏手に当たるところで3か所同時に発掘調査を行っていたところ、結構大量の埴輪が出土するという状況がございました。

こちらは「人部・峽遺跡」という遺跡になりますが、そちら3か所で行ってございました発掘調査、どうやら円墳ではないかというもので、遺跡の方だったのですけれども、そちらの中で出てきました埴輪が完全なものは出なかったのですが、そこでできた埴輪が、どうやら県北鴻巣市にございます、「生出塚埴輪窯」というところで作られた可能性が高いというところまで現状でわかっております。

その「生出塚埴輪窯跡」というのが、こちらの古墳時代後期の東日本最大の埴輪生産遺跡として知られておりまして、その出土埴輪は国の重要文化財に指定されています。ここで作られた埴輪が南は神奈川県まで、それから東ですと千葉県の方まで広がっているのがわかっており、その中で実は「人部・峽遺跡」にあった円墳も、何かそこから出てきた埴輪ではないかという可能性が出てまいりました。

もともと埴輪というか古墳時代をテーマに企画展のところを考えていたのですが、これは皆様方に早めにお知らせした方がいいだろう、見ていただいた方がいいだろうということで、発掘調査速報展もありますが、そちらよりもテーマが一緒であれば見ていただいた方がいいだろうということで、こちらは今大至急修復をしております。

そちらが終わった段階でということにはなりますが、何とか今年度、これまで平成20年ぐらいまでやっておりました春の企画展3月から5月にかけて、年に2回企画展をやっていたのですが、その春の企画展の期間に何とか間に合うようにしたいということで、主軸を埴輪の方にして皆様に見ていただける、そういった形をとりたいということでタイトルを改めまして、「根岸古墳群と内間木古墳群～朝霞の古墳時代～」として実施をしたいということです。

こちらは日程を変えて行いたいということで計画をしております。後ほど資料で見ただけのところがあればということで、文化財保護審議会の時に作った資料でございますが、後で見ただければと思います。こんな形の埴輪ですよっていうものが出てまいりました。そういう有名な遺跡で作られたのではないかとということがわかると朝霞市としても非常に重要な出土品であるのと同時に、そういった文化圏と共通してそこから流れてきて流通していたというような関係性も見てとれますので、そういったところでは非常にこれまで終塚ですとか一夜塚ですとか根岸古墳群というのは有名だったのですが、内間木古墳という名前だけであまりそのイメージが湧かなかったところに、円墳があったのだということがわかってまいりました。そういった意味でも市としてはかなりエポックメイキング的なものが出てきたのではないかなというふうに考えております。現在、絶賛修復中でございますので、委員の皆様におかれましてももうしばらくお待ちいただければというふうに思っております。

次にテーマ展示でございます。「池田幹雄追悼展」、こちらは長年にわたり朝霞市美術協会の会長を務められまして、昨年11月に逝去されました池田幹雄先生の追悼展示を5月に実施をしております。日本画の大家ということで広く知られておりまして、美術協会の会長を務められましたほか、県展作品展、先ほど申しましたけども埼玉県の近代美術館の方で行われている展示におきましても審査員を務められていた方でございます。朝霞との関係も非常に深かったということで、今回は実際に日本画13点、一番大きいものにつきましては200号サイズ、水彩画29点とそれまで市に一点、寄贈いただいたものも含めて合計で43点の展示をしたいと思っていたのですが、一部水彩画の方は展示できなかつたため、そういったものを展示させていただきまして、作品のうち42点を寄贈いただくということがございました。現在、収蔵庫に収蔵しています。こういったことがございまして、市長から、先の所有者でございました奥様の池田由利様に5月22日に感謝状贈呈をさせていただいたところでございます。

次に、9月には朝霞市県展作品展で、こちらは23点の作品を展示させていただきました。

それから2ページ目になりますギャラリー展示でございます。昨年度から引き続きということで先ほども申しました「朝霞と地震」を4月7日までになります展示いたしました。

また昨年度に引き続きまして、「あさか発掘調査速報展」を実施しております、昨年度は、発掘調査が7件ございましたので、そちらを実際にどういう状況であったかということ展示させていただいたところでございます。非常に関心が多くて、実物を報告書が出る前に見られたということで関心が多く寄せられておりました。こちらは今後も継続して行っていきたいというふうに考えております。

また、タイトル未定となっておりますギャラリー展ですが、こちらの方は今年度冬から行うものでございまして担当の方で内容を最終調整しているところでございます。



それから収蔵資料紹介展示でございます。小学校3年生博物館利用授業展示「昔の道具」は、年度またぎで4月7日まで実施させていただきました。今年度も1月以降に、小学校3年生博物館利用事業にあわせまして、物を変えながら昔の道具ということで展示を行う予定でございます。

それから資料紹介展示でございますが、こちらの方は昨年度と同様に資料を変えまして「独楽」と「ワタから糸へ」の展示を行っております。

それから三つ目です。博物館の実習生展示ということでは、今年は実習生が少なかつたため班を2班に分けまして、一班が「鳥と朝霞市の関係」、もう一班が「オリンピックと朝霞」ということで班ごとにケースの展示をギャラリーの方で行っております。

また生体展示につきましては、通年行っております「水の生き物」ということで、現在はフナ・ドジョウそれからナマズ、実は先日までザリガニも展示していましたが、ザリガニが亡くなってしまいまして、今水槽が2槽になっています。

夏には、旧高橋家住宅の方で実施しました「夏の夜の昆虫観察どきどきツアー」というものがあるのですが、そちらで捕獲をしましたカブトムシと、こちら博物館で自然系の専門調査員の方で飼育していますカブトムシを合わせて展示をしており、大変人気のある展示となっております。

それから3ページ目、講座でございますが、今年度も「歴史講座」と「古文書講座」を年明けに行う予定でございます。先ほど申しました企画展が3月からスタートしたいというところがありますので日程の方は若干変わってくるかと思いますが、今年も二つを行う予定でございます。

それから博物館体験教室につきましては、今年度は7本を予定しております。そのうち、「たたき独楽」それから「初めての篆刻」この二つが既に終了しております。こちらの「篆刻」ですが、夏に行っており、今年で3年目となりますが、大人向けの講座ということで非常に人気がございます。6人の定員ですが、先生一人で皆さんを見ていただくので、どうしても人数に制限が限られてしまいますが、非常に多くの応募がございました。来年度につきましては、先生と調整してアシスタントを入れていただくなど、もうちょっと人数を増やせるというふうなお話もございます。また応募もしやすいように、ホームページのアンケートフォームを利用するなどといった工夫もできればと、考えております。

続いて4ページ目の夏休み体験教室でございます。こちらにも既に3回実施をしております。「まが玉をつくろう」、「あんどんをつくろう」、「コースターをつくろう」ですね、いずれも作成に時間がかからないというところがございますので、午前・午後の2部制にして、なるべく多くの方に参加していただきたいということで工夫をしております。

博学連携事業でございますが、今年度も小学校3年生の博物館の利用の事業とそれから出張事業によりまして、小学校1年生の博物館利用事業を計画しております。現在学校と日程の調整を行っている状況でございます。

また、博物館利用検討委員会は今年度7月9日に行っておりまして、16人の先生方に御参加いただきました。それから学芸員実習は展示の方でも御説明いたしましたが、今年は、5大学5人の学生の方が実習を行いました。展示を作りながら、今年はちょっとプログラムの中に刀剣の手入れも入れさせていただきました。博物館の方で持っております刀剣中心になります。いわゆる赤羽刀という、赤羽の方で実際戦後にGHQに接収された刀剣、こちらを博物館に、もう20年前になります。6振りもらっております。それからプラス市民の方から寄贈されたりした刀剣を大学生の今回実習に来られた皆さんに、手入れをしていただくという、そういうプログラムの方も入れております。あわせて資料の調査の仕方ですとか諸々の博物館の学芸に関する実習を行っておりま

す。

最後に5ページ、「その他」でございます。

博物館は現在、外壁等改修工事を行っております。ちょうど皆様も当館に入られるときに工事用の足場が組まれていて幕がかかっているのがあったかと思います。昨年度実施をいたしました工事の基本設計に基づきまして、博物館開館して28年を迎えていますが、その間に経年劣化であったり、想定し得なかった夏場の非常に高温になる状況があったり、2011年の東日本大震災、そういった影響でタイルにひびが入っていたり一部落ちていたりという状況がございましたが、ようやく今年度それらのタイルのひび割れ、剥離外壁タイルの部分、それから金属屋根の補修、あとはコンクリート部分等で剥がれているところの塗装とクリアカバーという、水が入ってこないような処置であったり、あるいは屋上で平らになっている部分のアスファルトの防水工事を実施しております。工事期間が来年の1月末までとなっておりますが、現在非常に順調に進んでおります。こちらの方も間もなく綺麗になった館をお見せできるかなというふうに思っております。修繕工事箇所が、内部に関わらない外だけにとどまるということで幸い、休館等の影響がなく開館したままの状態です。工事を進められているところでございます。

説明は以上でございます。

(金子会長)

ありがとうございました。

ただいま説明がございました。何かありませんでしょうか。

(利根川委員)

まず1ページ目で、今日訂正をもらったときに、学校団体、団体数と人数、夏休みの体験教室も終わり今後博学連携の事業もある中で、この団体が少なくなったとか、ここで今後博学連携事業があると例年並みになるのかどうかという点と、あと一般団体については9月末までの実績ですが、これは増えていると思います。この要因についてお伺いいたします。

(藤原課長)

まず学校団体でございますが、こちら1団体、杉山先生に連れてきていただいた駿河台大学の皆様が入っています。通年はこの学校団体のほとんどが市の学校、ほかの、例えば学校団体ということで高校ですとか大学が入ってくるというようなところがあります。おそらく年度末には昨年とほぼ同様の数か、ちょっと多くなるかなぐらいというふうに考えております。

また、一般団体につきましては、コロナが明けたということで利用が非常に多くなっています。特に秋に入ってからまた多くなっておりまして、そういったことがあるのと合わせまして、博物館を利用していただくようなプログラムがほかのところでも組まれているというような状況を感じているところでございます。

これは先日行われましたJR東日本が市内のコースを使って、いろいろ市内巡りをさせていただいて、出発・到着が北朝霞駅になっているというようなプログラムを組まれて、博物館も寄ってくださいというコースに入れていただいたと。そういった形のもがあったり、あとはそのウォーキング団体さんですとか、そういったところも使っているというようなところで、「団体として入れますか」というような問い合わせが結構あります。コロナが明けて皆様の活動が活発になってきた中で、いろいろ博物館だけではなく旧高橋家住宅もそうなのですが、こういった施設をまた訪れたいというような心持ちになってきていただいているのかなというところがあります。そういった中で

非常にうまく使っていただいているというところがありますので、私どもこういった理由だけではないのですが、広く広報などもでも、どんどん進めていって、今回配らせていただいた「ミュージアムカード」もそうですが、うまくいろいろなものに乗せていただいて、来ていただける、そういった契機になればというふうなところも考えております。こちらの方はもっと増えていくのではないかなと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。

(利根川委員)

2ページ目のギャラリー展示で、前年度の継続事業ということで、「朝霞と地震」のと、発掘調査の関係、これ発掘調査は前年と比べて900から1,000人ぐらい少ないのかなって思うのですが、「朝霞と地震」に関しては、10分の1ぐらいしか入っていないという、これは何か要因があるのですか。

(金子会長)

事務局お願いします。

(藤原課長)

こちらの累計とそれから今年度のというところになりますので、実際には4月に入ってから的人数、まずギャラリー展の「朝霞と地震—関東大震災から100年を迎えて—」の人数的な部分で言いますと、前年度が4,275人、そこに495人加わって計4万4,170人ということで、4月の人数だけでございます。7日間分となっております。

それから「あさか発掘調査速報展」につきましては、実際には7か所なのですが、興味があるような例えば時代が出てくると、余計多いかなという部分があるかと思えます。前年度に行った調査の結果というところになりますので、おそらく例えば今年の状態でいうと宮戸の「人部・峽遺跡」の方も企画展と合わせて来年速報展の方に出せば、より多くの方が来られるのかな、なんていうことも考えられますので、そういった市民の方ですとか、そういったところも広く影響しているのかなと。これにつきましては、今利根川委員さんおっしゃっていただいたような部分というのは実は皆さんがどういう展示を求めているかということにも合致してくるかなというところがありますので、そういった皆様方のいわゆる趣味嗜好といいますか、求めているところ、それをどういうふうに拾い上げていくかっていうところにも繋がってくるかなというふうに思いますので、そちらの方につきましてはニーズを捉えるということで私どもの方としても力を入れてですね、皆さんのニーズを掴んでもっと来ていただけるような形にしなければいけないというふうに思っております。

(利根川委員)

そうですか。

次に5ページ目の利用者アンケート。89の方が御回答いただいたと。アンケートの良い点、悪い点というか、何か特筆すべきものがあれば御紹介いただければと思います。

(藤原課長)

アンケートにつきましては、ちょうど廊下を入れていった映像コーナーの入口のところに記載スペースを設けまして、書けるような形にしております。不特定の方に自由に

書いていただけるというような対応をとっていますが、回答者数としてはいわゆる来ていただいた方にすると少ない部分もあるかなというところがございます。実際にどのような形で声を拾っていくかっていうところが非常に私どもも難しいかなというふうに思っております。

ただ、書いていただく方の中にはアンケートに、どういった展示をこれからしてほしいですかというような項目がございまして、その中では非常に多くの方がいろんな展示をしてほしい、この時代が見たい、こういうものが見たいというふうに言っただけ、非常に良い機会であると思えます。

どういうふうな形で来ていただいた方にリピーターになっていただくか、まさにそこが課題であるかなというふうに思っております。より自由に書いていただける体制をとりつつ、皆さんの意見を捉えるのがどういうふうにしたらいいか、より多くの方にどのような形にしたら書いてもらえるだろうということ、企画展をやっているときには実際にその企画展を見に来ているということがあって、その中で展示関心があったり、職員がいたりすると声掛けをいただくというようなことがあります。

私どもも定時で巡回をしたり、あるいはいろいろと時間があるときには展示室を見回ったりしているのと、あわせてお声がけをさせていただいたり、逆にお声がけをいただいたり、というところがありますので、そういったところも使いながらということではなかなか非常に難しいところではあるのですが、先ほど申しましたニーズを捉える、その中でアンケートは非常に重要と考えております。

項目の中にはお客様についてお伺いしますということで、例えばお住まいはどちらですか、とかですね、あとはどなたと一緒にいらっしゃいましたか、ということで人数を聞いたりするところ、それから交通のここまでこられた手段ですとか、あとは何回目の来館であるかですとか、印象を伺うほか、目的、あと来館のきっかけとなった情報の入手方法等々合わせて10項目を書いています。その中にはスタッフの対応ですとか、こちらは幸いですね、対応が非常に良いというのが毎回出てきていたりするので、ありがたいところですけども、その中での来館のきっかけとなった情報の入手方法、それから今後希望する展示・イベントがあれば教えてほしい、必ずここは皆さんこう変えてくださるのですね。ですから、その中でのニーズの把握、これを毎月その利用アンケート集計ということでとらせていただいています。分析を進めながらニーズの把握に努める、それからもうちょっと何かいい方法がないかなということは随時こちらの方は研究検討しているところでございます。以上でございます。

(金子会長)

ありがとうございました。

なかなかこのアンケートから出てくる「こういうのをしてほしい」って言ってそれに答えるというのは、なかなか難しいと思えますが、できるだけできる範囲でということですよ。はい、どうぞ。

(利根川委員)

これまで運営してきて、当然その外壁の工事は緊急性がある工事だから、なるべく早めに予算をつけるというのはやってくれると思うのだけれど、枠配分予算の中で、博物館を運営していく中で予算面だとか、その改善面だとか何か効果、こうしたいけどなかなかできないっていう要望があったら、ぜひ言っただけければ、また取り上げていきたいと思えますので、よろしく願います。以上です。

(金子会長)

いや心強い御ご意見を頂きましたけど確かに財政も厳しい中で、朝霞市においてはですね、教育予算については、私もいつも見っていますが、減っているところもあります、博物館についても、そんな急激に減らされるようなこともないようですけど、今、利根川委員が言われたように、やはり、そういうふうな意見がありましたら私どもに言っていただければ、私の方でまとめて市の方をお願いするっていう形になるのが、この協議会での一つの役目でもあるのかなと思いますけど。はい、杉山委員。

(杉山委員)

資料送っていただいたときに、去年の事業計画で秋に企画展がある予定だったが、ないっていうちょっと不思議に思っていたのですけれど、今伺って、納得しました。それは宮戸から出た埴輪ですけど生出塚から出たっていうことで生出塚の埴輪って非常に大型のものが多いのですが、こちらのものは大型のものが出ているのでしょうかということとあわせて、あと去年の事業計画では企画展の図録を作る予定でしたが、今回入っていないのはどうしてなのか。

あともう一つ、調査報告書第22集ということ比留間家文書でしたかね、それが上がっていたのですが、今回計画の方では落ちているのですが、そのあたりどうなのでしょうということをお伺いできればと思います。

(藤原課長)

まず、宮戸の「人部・峽遺跡」の方から出ております埴輪につきましては、今、杉山委員おっしゃったように、大型のものが、はい、大型と思われるというふうに言った方がいいのでしょうか出ております。おそらく組み上げれば、人物埴輪であるとか、半身像の埴輪であるとか、あとは形状的な埴輪っていうのですかね、円筒埴輪なのですけども、装飾がついているような、ああいう大型のもの先端部分であるとか、そういったのが出ているので、おそらくほぼほぼ同じような生出塚、国の重要文化財になっているその埴輪群の中にあるようなものがおそらく出ているのだろうなということがちょっとわかっております。ただ、いかんせん残念なのが、全体で出ていないと、おそらく故意的なのかわからないのですけれども、ちょっと壊れていて破片の状況なので、どこまでっていうのがわからないのですけども、そういった状況になっております。

それから計画の方で申し訳ございません、実はですね、古文書の報告書ですとかそういったものは、うちの方で作るということで今現在、最終調整中でございます、このところは落ちているということではなくて、実際にこれから調整していて、まだそのところが完全になってないというところだけですので、御安心いただければというふうに思っております。また、調査報告書のほかに図録の方ですが、企画展では図録を作るというふうな形なのですが、いかんせん今ちょうど修復中でございますとどこまでその広げられるかと、いわゆる厚さというのでしょうか、そういったところは未定になっております。なにぶん御存じだと思っておりますが、挂甲武人像が国宝になってから50周年ということで、今、国立博物館と国の美術館の方で同時に埴輪展をやっている状況にあります。

それから、あと全体を見回しても、実は県内埴輪とか、古墳時代の企画展が、今ほぼほぼ同時に行われていまして、そういった関連もあっていろいろなものがなかなか借りられないというふうな状況がありますけども、何とか何点かちょっと関係するとか持って来られるかなあ、というところがあったりもして。そういったところの調整をしている中なので、企画展の図録は作りますが、厚さの方は未定というそんな状況でございます。

(杉山委員)

ありがとうございます。ぜひ楽しみにしていますし、生出塚なんかは数が出ていますし復元はね、多分そういったものを基にすれば可能かなというふうに思いますので、楽しみにしております。

あと、もう一つ先ほど、利根川委員からあったアンケートですけれど、アンケートについては、毎回私も少し言うのですが、やっぱりある程度、日にちを決めて、この日っていう形で手渡しをして書いていただければ、ある程度、集計が可能かなというふうに思いますのでそういった、ちょっと面倒ではありますが、毎日ということではなくて、ある1日この日、アンケート集計日という形で、何かそういったことを何か催しがあるときなどとってみたらいいかなというふうに思います。

あともう一つ、入り口にあった博物館のシンボルのプレートとか、ああいったことをちょっと紹介された方がいいかなというふうに、老婆心ながら思いました。

(藤原課長)

御意見ありがとうございます。今、杉山委員からおっしゃっていただきました、実は、カウンターと入り口入った正面のところにプレートを設置してございます。これは国の登録博物館に登録されているというものでございまして、昨年度の3月に、ちょうど登録が終了したということで登録名簿に載りました。県内の市立博物館、私立と市立と県立等ということで県立はありますが、市立の博物館でかつ歴史系の総合博物館の中では昨年度、実際に登録されたのが5館ありましたが、唯一ということになっております。ほかには美術館ですとか、角川ミュージアムですとか、県立の博物館ですとかそういったところを登録されていると、確か近代美術館さんの方も登録されていたかと思うのですが、昨年度までで5件登録されておまして、ちょうどですね、令和5年から5年間の間で、旧登録博物館法の中で登録されているかについては登録をし直さなきゃいけないということでその初年度に朝霞市博物館の方は登録が終了しております。その証となるプレートの方を実際にそちらへ入り口のところに置かせていただいておりますので、お帰りの際に見ていただければというふうに思っております。以上でございます。ありがとうございます。

(陶山委員)

ギャラリー展示ですけども、日頃から学芸員さんが興味を持ったり、ちょっと研究していくことがたくさんあると思います。それを発表する事なのでしょうけども、ただ企画展に取り上げられないからといって、それはあまり過小評価しない方がいいと思います。企画展だとか、この関連講演会とか、あといろんなことをしていると、そこでたまに学芸員さんが説明しているだけじゃなくて、やっぱり説明会とか、何かちょっと30分位からそういう何かその期間にやってあげたら、もっと学芸員さんの向上心とか探求心とかそれに対する、裏づけと言いますか、できるのではないかなと思っています。そのときに誰もいないと読んでいるだけなので、それで言うとね、あんまり話の中に実感がないと言うのかな。

やっぱり生の声を聞きたいなっていう、それはあの講演会とかそういう大きなものじゃなくていいので、そういった場を、ちょっと作ってあげたらよろしいのではないかなと思っています。以上です。

(金子会長)

ではあと、吉岡さん、一言何かございますか。

(吉岡委員)

美術の方で「池田幹雄追悼展」を拝見させていただいて、御寄贈にもなったということとでいろいろ御苦勞もあったかと思いますが、素晴らしいことだなと思いました。あとちょっと本当に門外漢なのですけれども、そういった埴輪発掘されて、それに合わせて展覧会を作られるということで、そちらの方も大変楽しみにしております。

2点、まずアンケートですけれども、うちの館も結構声掛けをしたり、いろいろ工夫をしております。一つ例として、何かくじ引きを受付に用意しておいて、本当に簡単に割り箸とかで作って、なんか当たりが出たらチケットとかなんかグッズとかをプレゼントするっていうのをやったら結構回収率が、特に最初の方はとても上がったので、もし何かそういう、本当にほかの館でもそういうことをやっているの、割と回収率の高いところがあったので、そういった方法もお声掛けと合わせてあるのかなというふうに思いましたので。

あと、こちらは今の館でも模索をしているところですが、今年の4月から障害者の方への合理的配慮の義務化というのがありまして、さっき市外の障害者施設の方が結構来館されているというふうにお聞きしたので、何かこれから工夫をしたいと思っていらっしゃるかどうか、本当に少ない人数の中で大変ご苦勞もあるかと思いますが、もしちょっと今後のお考えとか、何か工夫されていることとかあったらお聞かせいただけたらと思います。

(金子会長)

はい、ありがとうございました。

(藤原課長)

ありがとうございます。合理的配慮というところで、当館は幸いなことにワンフロアでフラットな状況でもともと段差がない展示施設になっておりまして、いわゆる常設展示室もスロープがあったりということで車椅子の方もそのまま通っていただけます。

実は昨日も車椅子の貸し出しをしたところですが、そういった形での車椅子も用意していたり、あとはトイレにつきましても障害者用のトイレをもともと備えてあります。あとは、駐車場も今工事で1か所ちょっと短くなっていますけれども、そのまま入り口の横につけていただける駐車場になっていますので、そういった点で使いやすいのかなというところがあります。

あとはラウンジを皆さん使っていていただいてまして、そのこのところでお休みになって休憩したり飲み物を飲んだりお弁当食べたりしていらっしゃる方もいたり、工事がなければラウンジから水車が回っているところが見られたり、山の方の風景を見られたりというところがありますので、そういったところでも展示だけじゃない部分で見ただけのようなところが、広い範囲ではなくコンパクトの中で何か利用していただいているのかなというふうに感じています。これは当初から意図して何か作り上げたということではなくて、最初のコネプト上でこうやっていたものがそのまま生きたのかなと、そんな印象を持っています。

(金子会長)

あと何かございませんか。

はい、どうぞ。

(猪俣委員)

すいません、ちょっとと言いながら3点もあるのですけれども。

学芸員の方も、日頃本当に御苦勞されていろんな活動されているところを、もう少し、

学芸員ってこういうことを素晴らしいことやっているというのがわかるように、例えば、紀要を発行されている、私これすごく朝霞市にとって宝だと思っているのですね。市民の方にもぜひ読んでもらいたいと思っています。ですので、紀要を活用する方法を考えていければなあというのが一点と、あともう一つはこれ福祉の方に関係するとは思っているのですが、氷見の博物館では、回想の会という昔の道具の貸し出しをしていて、老人ホームとかですね、そこで会話を盛り上げているというような活動をされています。もし貸し出しが、学校だけでなく、そういったホームとかにもされたらいいのではないかなと思っています。

最後なのですけれども、博物館などでボタンを押すと説明が流れる施設っていうか機械がないのですね。どうするかというとパートの方とおっしゃっていましたが、必ず1人着くのです。それで回路に沿って説明していただくと、贅沢な博物館の回り方だなと思ったのですが、こちらの館はボタンを押すとあの声流れますので常設展だけではなくて特別展でそういった贅沢な博物館の回り方っていうのができたらもっとも市民の知識も高まるかなあという点で、この3点だけ最後にお伝えさせていただきました。

(藤原課長)

どうも御意見ありがとうございます。

学芸員につきましては、実際に言っていた研究紀要のほかに、調査報告書、それからあとはいろいろな出版物ということで、ほかに、例えば要覧を作るグループであったり、そのときに展示をするグループであったりということで、なかなかその学芸員の数でいうと今年2人しかいないというところがあるのですが、その中で役割分担をしながら、また、実際に学芸員の勉強もしてくれている職員もおりますので、そういった職員なんかもいろいろと、展示に携わりながらということで、いろいろな機会を捉えて、プラスの表に出ていくようなそういった発表みたいなものができればいいかなと思っています。

それで最後の部分に繋がるかと思うのですが、朝霞市博物館につきましては、御要望があれば職員でも博物館の学芸員でも展示を説明してくださいというふうなお声かけがあればいつでもするよということ、説明がしてほしいという時はベルを押せるようになっていきます。そこのところでは何なりと行ってくださいというふうな形にしていますので、逆にそこのPRがちょっと少ないのかなと、実際に博物館の職員であれば事務系それから学芸員関係なく説明ができるよということ、これについては強化していきながら皆さんにお知らせして、どんどん利用していただけるような体制をとればいいかなというふうに思っております。

それから2点目の道具の貸し出しですが、確かに学校の方につきましては道具の貸し出しをする中でビデオをつけたり、あるいは使い方の最初に説明をしたりというところがあります。いっぱいある道具例えば昔の農具なんかですと、割と数が多いので、その部分については大丈夫な部分もあるのですが、一点しかないようなもの、そういったものをどうしていくかということもあつたりしますので、そこはこれからどういう形での利用をしていけるのかということでは、研究課題になってくるかなというふうに思っております。レプリカを作るとか、私どもで同じようなものを作るとか、いろいろな方法も考えられるかなと思いますので、昔のこんなのがあったよねっていうのがわかるかなというふうに思いますので、非常に良い案として私どもの方でも研究していきたいと思っております。以上でございます。

(金子会長)

ありがとうございます。



「篆刻」は今年からですか。柔らかい石を削って印鑑を作るのですか。

(藤原課長)

「篆刻」は今年で3回目になります。青田石という四角い石です。ちょうど書にこうして押してある印を1日で作っていただくということになるので、皆様の方のお名前を一字頂戴して、先生にあらかじめ、字体を選んでいただいて、こんな字がありますよっというので、そこからすぐにスタートという形で、1日でそちらを仕上げるというような形になります。

(金子会長)

あと、何かございませんか。なければ、次に進ませていただきます。  
3の「その他」について事務局の方から何かございますでしょうか。

(木内主幹)

それでは事務局の方から事務連絡がございます。次回の協議会でございますが、例年2月頃に開催をしておりますので、次回も2月頃の開催を予定しております。開催日時や場所などは、改めて事務局の方からご通知をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

次に会議録の作成でございます。これまでどおり事務局にて案を作成し、会長に内容を確認していただいたのち、そちらを確定稿とさせていただきますのでよろしくお願いいたします

事務局からは以上でございます。

(金子会長)

ありがとうございました。

今日で猪股委員さんが、本日でこの会を終わりになるそうですので、何か一言御挨拶をお願いします。

(猪俣委員)

2年ってすごく早く過ぎるのだなと、今思っているのですがけれども、2年前の11月に広報を見て協議員の方に応募させていただきました。

その間に博物館について全く知らなかったのですが、大変多くのことを学ばせていただきました。そして朝霞市が大好きになりました。ですので、今後ともこの博物館の、運営を市民として見守っていきたいなと思っております。2年間どうもありがとうございました。

(金子会長)

これからもまた博物館の方に足を運んでいただければと思います。どうもありがとうございました。

それでは、本日の議題が全て終了いたしましたので、事務局の方にお返しします。

(木内主幹)

それでは、以上をもちまして令和6年度第1回朝霞市博物館協議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。